

3月より 受託生産事業に進出

幅広い工業用ケミカル、エア剤型も検討

大手の探傷剤、マークテック 成田工場に大型投資



受託生産する工業用ケミカルを成田工場

エアゾール金属探傷剤の最大手であるマークテック（東京都大田区大森西）の西本圭吾社長は3月1日に新事業として化学品の受託生産を本格的に開始したことを発表した。

同社は非破壊検査装置および印字マーキング装置の国内トップメーカー。創業67年の実績と化学品の開発・技術力、そして同社成田工場の充実した生産設備・検査機器で、現在市場で高まるOEMニーズに対応する。当面の受注ターゲット

は化学品商社やファブレスの化学品メーカー。受託生産品例として、探傷剤、分散剤、脱脂洗浄剤、加工油、防錆剤、離型剤、塗料、インクなどをあげ、消防法上の危険物／非危険物ともに取り扱う。そのほか付随する各種サービスとして、受託品の企画開発や改良品の提案、完成品の在庫にも対応する。既に、エアゾール充填設備を持つタイ等の海外グループ会社においては2019年から受託生産事業を開始。タイや中国法人による海外生産のほか、パートナー企業との協業によって幅広い品目を大口ロットから小ロットまで対応するとしている。

現在、成田工場では100リットルから1200リットルの大小13のタンクを保有しており、今秋には1700リットルクラスのタンク3基を新たに設置予定。さらに動線を見直し工場のレイアウトを変更するなど積極的に設備投資をする。さらに随時工程の自動化を進め「3年後を目処に生産能力の倍増を目指す」としている。西本社長は、「エアゾール充填を含めて、お客様の幅広いニーズに合わせたきめ細かなサービスを展開する」と語っている。問い合わせは同社ウェブサイトにまたは営業部（03-3762-4453）まで。

株式会社エアゾール産業新聞 発行

エアゾール&受託製造産業新聞 No.1774 (2022年3月15日)